

# 四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

## 談話室 Vol.63

### アウトドアスポーツと体験交流のまち・本山 —吉野川と支流汗見川—

高知県 本山町長  
いまにし 芳彦  
よしひこ



本山町は、高知県の中央北部、四国山脈の中央部に位置し、全町の約90%を森林が占める山間の町です。

町の中央部を西から東へと日本3大河川のひとつ四国三郎「吉野川」が貫流しています。高知県の主要な河川は、土佐湾へ流れ込んでいますが、吉野川は東流し、徳島県を経て紀伊水道へ流れています。

本山町には、「四国の水がめ」と称される「早明浦ダム」があり、水力発電や洪水調整、生活用水、農業・工業用水を供給するなど、四国の産業基盤の強化と生活環境の整備に大きく貢献しています。その反面、ダム周辺の住民は、洪水時の濁水放流等の環境悪化に悩まされています。

江戸時代には、土佐藩の土佐十宝山のひとつであった白髪山から大量に伐採したヒノキ材を、吉野川を利用（流送）して大坂市場に出荷、膨れあがった借金を返済し、土佐藩の窮地を救ったこともありました。

本山町では吉野川や支流を利用したイベント開催や体験交流活動が展開されており、高知県内で最も古い歴史を持つ「吉野川いかだ祭り」を始め、昨今水に親しむアウトドアスポーツが盛んに楽し

まれています。

中でもダム下流域には、カヌー競技施設が整備され、安定した水量に恵まれて初級者から上級者まで楽しむことができ、公式カヌー競技大会が開催される「カヌーのメッカ」として多くのカヌー愛好者に親しまれています。

また、清流として名高い支流「汗見川」沿いの地域では、地域が主体となり体験交流事業を実施しており、春には川岸を彩る岸ツツジ見学と、地域の女性グループが腕を振るう田舎料理を味わう「岸ツツジほのぼの体験ツアー」には町内外の汗見川ファンが集います。

また、河川周辺の景観を良くしようと道路と川の間には植えられたスギやヒノキを伐採し、広葉樹に植え替える活動がすすめられています。

この取り組みは、流域の若者主体で平成13年から始められ、現在植栽地（樹種転換）面積2haを超えています。

この支流の活動グループが中心となり、間伐や植栽地整備を通して地元水源地域と、香川県などの利水地域や森林環境に関心を持つ方との交流も広がっています。



県立自然公園「白髪山」のヒノキの白骨林



早明浦ダム下流の吉野川でのカヌー体験



汗見川沿いの河畔林整備



「汗見川の岸つつじツアー」